

花草木

【ベゴニア・センパフローレンス】

ベゴニア・センパフローレンス（学名 Begonia Semperflorens）は、おそらく日本で一番ありふれたベゴニアで、四季咲きベゴニアとも呼ばれ、公園や学校に植えられている小さいベゴニアは、ほとんどがこの種です。

ベゴニアは、ブラジルを原産とする多年草です。

半日陰でも育つので、お庭はもちろん、ベランダや玄関先でも栽培しやすい植物といえます。品種によって開花時期は異なりますが、5月～11月にかけて鮮やかな花を咲かせてくれます。

ベゴニアには驚くほど多様な品種が存在していて、野生種は世界で約 2000 種以上が確認され、品種改良が盛んにおこなわれてきた結果、現在では 1 万種類以上もあるといわれています。

ベゴニア・センパフローレンスの花言葉は、「不格好」「奇形」です。



公園で咲いていたベゴニア・センパフローレンスの花

我が署のスタッフ 滋賀森林管理署

城第 智久（じょうだい） ともひさ（令和7年度採用）

【現在取り組んでいる仕事は？】

鳥獣害対策担当として、シカによる森林被害を防ぐための業務に携わっています。シカ捕獲事業の監督や市町との連携を通じて、森林被害の軽減に取り組んでいます。相手が野生動物だからこその難しさもありますが、自分なりに工夫した取組が成果につながったときには、大きな達成感を得られる仕事です。

【職場の雰囲気は？】

職場は風通しが良く、分からないことは上司や先輩に気軽に相談できます。担当やグループを越えて協力することも多く、一人で悩みを抱え込まずに仕事を進めることができます。若手職員も安心して挑戦できる居心地の良い職場です。

【林野庁の魅力は？】

私自身、林業の知識がない状態で入庁しましたが、充実した研修制度や先輩方のサポートのおかげで、知識や経験を身に付けながら業務に取り組んでいます。自分の仕事が地域や森林の未来につながっていることを実感でき、大きなやりがいを感じられることや、現場に出る機会が多く、森林や自然に触れながら働けることが魅力です。



昨年 11 月開催の現地検討会でシカ捕獲機器を説明

森林事務所等紹介

八幡森林事務所（滋賀森林管理署）

森林官 吉田 周平（よしだ しゅうへい）

八幡森林事務所では、約 2,400ha の国有林を管理しています。八幡管内の特徴としては、かつて島であったものの、干拓によって陸続きとなった奥島山国有林や伊崎国有林、また、平安時代に瀬田の唐橋から依藤太が射ったとされる大ムカデ伝説の舞台となった三上山国有林など、人々の歴史や文化と深い関わりを持つ国有林が挙げられます。



伊崎国有林（左）・奥島山国有林（手前）と大中干拓地

八幡森林事務所管内の特徴的な取組として、伊崎国有林で実施しているカワウ被害対策事業があります。この事業は平成 16 年度（2004 年度）から実施しています。

カワウ被害とは、カワウが集団で樹上に営巣することにより、枝の折損や糞害によって植物が枯死し、森林が荒廃してしまう状態のことです。被害が最も深刻だった時期には、樹木の枯損に加え、乾燥した糞が空气中に舞い、マスクの着用が欠かせない状況であったといいます。こうした被害を防ぐため、ワーキンググループの設置や営巣状況の調査、シャープシューティング※によるカワウの駆除や追い払いを積極的に実施し、平成 30 年（2018 年）には営巣被害がほとんど見られなくなりました。



糞によって覆われた植物
（伊崎国有林）



平成 17 年（2005 年）頃の被害状況（伊崎国有林）



令和 8 年（2026 年）回復した森林の状況（伊崎国有林）

現在では、植樹などの森林再生の取組の効果もあり、樹冠がほぼつながるまで回復しましたが、継続して月に 1 回程度の巡視を行い、カワウの営巣状況を確認しています。

※動物の行動を調査し、出没場所や時間を見定めて、「銃器」（空気銃）で効率よく捕獲する方法です。

シリーズ『国有林 最前線！』

林業を担う人材育成に向けた取り組み

広島北部森林管理署

広島北部森林管理署では、森林環境教育プログラムを通じて森林の大切さを伝えるとともに、将来の林業を担う人材の育成につながる取組を進めています。

令和2年に、広島県森林組合連合会、広島県立庄原実業高等学校及び国有林を管理する広島北部森林管理署の3者による人材育成連携協定を締結しました。その後、令和4年からは広島県庄原市も参画し、関係機



1年生によるチェーンソー実習

関が相互に連携・協力しながら継続的な森林環境教育プログラムを進めています。

取組では、森林観察や収穫調査、木工体験などを通じて、森林が水源の涵養や災害防止、生物多様性の保全など、多面的な機能を有していることを学びます。

また、森林を適切に管理し、木材を資源として活用する林業の仕事についても紹介しています。小型林業機械の操作体験やドローン操縦体験などの実習に加え、実際に森林で働く職員との交流を通じて、生徒は森林を守り育てる仕事への理解を深めています。

こうした体験は、森林や自然への関心を高めるだけでなく、地域の森林を支える人々の役割を理解する貴重な機会となっています。実際に、森林環境教育プログラムに参加した当時の庄原実業高等学校の生徒が林野庁へ入庁し、現在は広島北部森林管理署で職員として活躍しています。



2年生によるドローン操作実習



2年生による小型林業機械の操作実習

広島北部森林管理署では、協定締結以降、上述のような森林観察や収穫調査、ドローン操作実習等に取り組んでいるところであり、引き続き、同様の取組を継続し、将来の林業を担う人材の育成を推進してまいります。